



国立水俣病総合研究センター（国水研） 広報誌

とんとん峠

37号

(2013.09)

国立水俣病総合研究センター屋上からの景色は八代海と湯の尻、海と山の景色を楽しめる素晴らしいものです。是非多くの方々に御覧になっていただきたいところです。

さて、今号の特集は毎年夏休み期間中に行っておりますオープンラボ（一般公開）の様子を中心に紹介します。昨年度にもまして多くの方々に来場いただきましたことを心より感謝申し上げます。

国水研は、水俣病に関しての総合的な調査、研究、そして国内外の情報の収集、整理及び提供を行うことこれらに関連する研修の実施を目的として環境省の機関として熊本県水俣市に設置されています。

国水研は、わが国の公害の原点といえる水俣病とその原因となったメチル水銀に関する総合的な調査・研究、情報の収集・整理・研究成果や情報の提供を行うことにより、国内外の公害の再発を防止し、被害地域の福祉に貢献することを目指しています。



目次

● オープンラボ

一般公開の様子

● 国水研からのお知らせ

● 編集後記

● アクセスマップ

●特集

「オープンラボ(一般公開)」

満員御礼感謝いたします

国水研の夏の恒例行事「オープンラボ(一般公開)」を、七月二十日(土)に開催しました。今年は一日程の開催でしたが、二日間の日程で過去最高であった昨年度にせまる二五四名の来所者で大賑わいとなり、うれしい悲鳴をあげました。未満員から八十代まで幅広い年齢層の方々に来ていただき、それぞれ楽しんでいただいた事と思います。たくさんのご来場、本当にありがとうございました。

例年人気の高い「不思議なマイナスの世界」ではマイナス二〇〇度の液体窒素とマイナス八〇度のドライアイスを使い、いろんなものを凍らせて、その違いを見ました。全年齢層で人気がありました。高校生以下のグループでもしろいという感想が多かったです。



マイナスの世界、今マイナス何度かな？

今年初登場の「スライムを作ろう」は、簡単に手に入る洗濯のりとホウ砂を使い、カラフルなスライムを作りました。自分で作ったスライムを持ち帰れるのが小学生に大人気で、一人でも回もスライム作りに励んだ子もいました。



ほくのスライムは青色だよ！

「土の正体は？」では、土を化学的に処理し、実体顕微鏡で観察しました。土は鉱物結晶から出来ていて、実体顕微鏡で観察すると、色も形も様々で、さながら宝石箱のようでした。大人も子どもも驚きの歓声をあげて、見入っていました。



土の正体は？きれいで見飽きないね。

毛髪水銀値測定や体組成チェック、リハビリ器具の体験などは中高年の方に人気で、健康や水銀についての関心の高さを示していました。
「ものづくり」でリハビリ体験では、革のストラップを作るコーナー、カラフルなアイロンビーズでキーホルダーを作るコーナーを企画し、どちらも

行列で順番待ちができるほどの人気で、子どもも大人も熱心に作品作りに取り組んでいました。



「ものづくり」でリハビリ体験。大人気！

「ものづくり」でストレス発散では、ものづくりを違った視点から見ても、ものづくりでストレスがどのように変化するかを測定しました。ストレスの指標となる唾液アミラーゼをものづくりの前後に測定して、その違いを実感して貰いました。



ものづくりでストレス発散。何をつくっているのかな？

「水俣水族館」では、ヒトデ、ナマコ、カニなどに直接触れる「タッチプール」、様々な生きものをグループ毎に展示する「水槽コーナー」、小形の生きものを拡大して観察する「マイクロスコープコーナー」、水俣湾の生きものを紹介する「図鑑、資料コーナー」を設けました。当日は、大人も子どもも直接触ったり、拡大したり、水槽にいる珍しい生きものを眺めたり、それぞれ楽しんでいただきました。生きものは事前に採集し、オープンラボ終了後はその日に、元の海に戻しました。



水俣水族館。これは何という種類かな？

「国水研ってどんなところ？」では、普段国水研はどんなことをやっているのかをポスターと解説で紹介しました。水俣における調査や患者さんへの対応、海外での水銀に関する調査などの説明に、感心したり、質問をしたりと興味を持っていただいた事をありがたく思います。



国水研ってこんな事やってるんだね！

昨年以上の猛暑で屋上に上られる方は、多くはなかったのですが、日傘を差して、ゆっくり見学される方もいました。国水研から望む八代海の景色は絶景です。今年、屋上の景色を見逃した方は、来年はこれを目的にご来場下さい。



屋上展望。日傘をさして。

ちょっとした景品付きのクイズラリーも人気で、各企画にクイズがあり、全問正解を目指して、懸命にヒントを探す方もおられました。その甲斐ありほとんどの方が正解をゲットされています。アンケートでは、「楽しかった」「勉強になった」「また来たい」などのありがたいお言葉が多数で、うれしくなりました。初めての来場者が七〇%近い。

職員一同、心よりの待ちいたしております。

国水研の動き

(平成二十五年七月～平成二十五年九月)

- 七月十三日 介助技術講習会
- 七月十九日 K-I-T-A研修
- (中国・エジプト・ジャマイカ・マレーシア・ミャンマー・パキスタン・スリランカ)
- 七月二十日 一般公開(オープンラボ)
- 七月二十八日～八月二日 国際水銀会議(イギリスにて)
- 八月七日～十日 慶應大学水俣フィールドワーク
- 八月十七日 情報センターナイトミュージアム
- 八月二十六日～九月六日 JICA研修(ブラジル)
- 九月三日 衆議院調査局外務調査室水俣視察
- 九月十一日 総務省公害等調整委員会事務局長水俣視察
- 九月十二日 谷津龍太郎環境事務次官水俣視察

お知らせ

◎国水研(NIMD)スポンサーによる国際水銀会議二〇一三(エジンバラ、英国) 特別セッション

二〇一三年十月に「水銀に関する水俣条約外交会議」が、熊本市及び水俣市で開催されます。それに先立っての国際水銀会議ということで、UNEP水銀条約へ向けての取り組みという基調セッションが特別に組まれて始まった会議でした。

今回のエジンバラの国際水銀会議では「海洋性動物中の水銀と健康リスク」というテーマで特別セッションを行いました。このセッションは国水研がスポンサーとして演題発表者の参加費用を負担して行なっています。セッションは八題の口頭発表と四題のポスター発表から構成され、発表者の選択を坂本とカナダ・オタワ大学のローリー・チャン教授とで行ないました。演者は、日本から四名で、坂本がクジラ肉や臓器中の水銀の化学形態別分

析の発表を行い、クジラを食べる習慣を持つ太地町での血液検査の結果に続き、中村室長による太地町での健康調査結果に関する発表がありました。また、カナダ・アラスカの四名の研究者からは、アザラシやクジラの肉を食べる習慣を持つイヌイットの人たちの水銀暴露量と健康影響についての発表が主に行われました。

この特別セッションでは、クジラやアザラシの肉における水銀が通常の魚類と異なり、総水銀濃度が高いほど無機化され、セレンと結合しセレン化水銀という消化吸収されない不活性の物質に変換されており、このことが海洋性哺乳類の水銀から身を守るメカニズムであることを示唆するデータが示されました。また、クジラを食べる習慣を持つ日本の住民やイヌイットの血液の中では、水銀の毒性を抑える効果のあるセレンが同時に高まっていることが報告されました。更に、日本やイヌイットの検査では水銀が明らかに魚の健康影響を示しているという結果は得られず、海洋性哺乳類の摂取に関しては、そのリスクを考えると妊娠してい

る女性では種を特定して食べる量を減らす注意が必要だが、更なるリスクとベネフィット(便益)の研究を重ね、そのリスクとベネフィットのバランスに注意した食生活の指導が重要であろう、との結論に至りました。

水銀会議では、国水研のブースで毛髪測定サービスを行い、非常に好評を得ました。国水研のこれらの貢献は高く評価され、最高貢献スポンサーの一つとして、開会式と閉会式で主催者からの謝意が示されました。



「水銀条約外交会議」

スケジュール

一〇月七〜十一日

九日には水俣現地視察があり、約一四〇カ国、約八〇〇名の方が水俣を訪れられる予定です。

編集後記 本日のとんとん峠

今年度の発行は、今回で二回目となりました。(既報分につきましても、HP上にも掲載されております。)今回の特集は、七月下旬に国水研にて行われたオープンラボ(一般公開)の様子をご紹介します。おかげさまで昨年度にもまして盛況に終わりましたことを心より感謝申し上げます。

ご意見・ご感想は左記のメールアドレスまでお気軽にお寄せください。

Eメール mail@nimd.go.jp

アクセスマップ

